

高橋紘一先生を偲んで

ふきのとう

OB会だより

特別号
(24)

発行日 平成18年8月2日
秋田県立秋田南高校
吹奏楽部OB会発行
編集責任者 仲谷 廣
印刷 秋田情報プリント



略 歴

昭和15年12月28日 岩城町(現由利本荘市)生まれ
昭和34年3月 秋田県立秋田高等学校卒業
昭和38年3月 山形大学教育学部特設音楽科卒業
昭和38年4月 郡山市立郡山第一中学校に赴任
昭和40年4月 秋田県立花岡工業高等学校に赴任
昭和41年度 秋田県立花岡工業高等学校吹奏楽部を率いてBクラスで吹奏楽コンクール東北大会優勝
昭和42年4月 秋田県立秋田南高等学校に赴任
昭和62年4月 秋田県教育庁文化課学芸主事
平成元年4月 秋田県教育庁文化課主任学芸主事
平成4年4月 秋田県教育庁文化課課長補佐
平成6年4月 秋田県立秋田南高等学校教頭
平成9年4月 秋田県立花輪高等学校校長
平成11年4月 秋田県立新屋高等学校校長
秋田県吹奏楽連盟会長、全日本マーチングバンド・パトントワリング秋田県連盟会長、秋田わか杉国体式典専門委員会副委員長に就任
平成13年3月 定年にて退職
平成14年12月 秋田わか杉国体式典音楽企画会議(現 式典音楽部会)部会長に就任
平成17年8月2日 ご逝去

北海道旅行のプレゼント

OB会長 仲谷 廣(一期)

OB会主催の偲ぶ会、県吹連主催のメモリアルコンサート、追悼公演とした現役の定期演奏会も終わり、一年が過ぎようとしている。創立間もない昭和四二年からの十九年、さらに教頭職の三年間、母校を離れてなお様々な場面で後盾になっていたOBも多数あり、まさに恩師の中の恩師である。

四十年にも成らんとする間、直接指導を受けていない私の思い出とすれば、やはりOBバンドの結成のことになる。役員会例会場は、いつも先生のご自宅書斎。勝手に上がり込んでお帰りを待っていた時のこと。

当時、県文化課学芸担当の先生、帰宅するや否や曰く「OB純血の社会人バンドを創ったらどうだろう、習志野にも天理や淀工にだって無い。うちの連中は間違いなくやれるし、随分市内へ戻ってきているようだ。大人になってまた吹かせてみたいし、黙っていらせるのはもったいない。勿論コンクール(目指す全国大会は札幌)にも出るヨ。棒振りには木内恒(十四期)や高崎(十九期)もいることだし大丈夫。」ということで程なく結成。私は消極的な気持ち。というのは、OB会の集まりがあってもいつも出席率が良くないのが心配の種でしたから。先生はアトリオン音楽ホールの運営も落ち

着き、役所勤めも慣れてきたし練習時間を作れるとの由。役員一同も然らばと動き、とにかくバンドが誕生した。何と、出来たてホヤホヤ楽団が青森の東北大会をクリアー、札幌大会へはフライト旅行。先生は仕事でやり繰りつかず残念な日程でしたが、青森大会へは私の車でドライブ。

車中でのよまやま話の後「ここをこうやればイイところまで行ける。連中も練習にもう少し集まればいいが。しかし、ヒョツとしたら札幌に行けるやも。ナニセ本番にはすこぶる強い連中だから。」基本をキツチリ仕込まれたいわば金賞軍団を引き連れ、戦力分析されている心の楽屋裏を垣間見たような気分でしたが、「遠征費等で迷惑をかけるし悪イナア」と演奏前からその先々を案じながら明るく語られていた。かのバンドの全国大会はあれつきり、先生が北海道旅行をプレゼントして下さった、と今でも勝手に思っている。

先生の教えは、「先ず、立派な南高の生徒であれ」そして「謙虚であれ」が基本であった。現在も「謙虚・向上・そして感謝と思いやり」の心を現役へ、愛弟子の阿部智博先生(二期)がしっかりと受け継いでおり、OB会一同もさらなる支援をしなければと思っているところである。

小林 久仁郎

絃一先生のお姿を思い浮かべると、いつでもにこやかな笑顔が甦ってきます。不思議にしかられたという記憶がありません。学校の仕事上のことで何か苦情めいた内容の話になっても、「頼む、なんとかやってけれ」という雰囲気で、不快な思いをさせられたという感じがしないのです。余人の及ばない実績を残されたにもかかわらず、威張るとか、高圧的とかいう言葉が、まったくそぐわない方であったと思います。人徳のなせる業ということなのでしょうが、凡人にはとてもまねのできることはないように思われます。

花輪高校在職中に、県の吹奏楽連盟



の理事会に何度も出席しましたが、その際に、県の理事長としての立場で絃一先生が発言されたことを思い出します。県北・中央・県南の三地区こもごものわがままに対して、地区の独自性を尊重しつつ、実に穏やかかつ適切な内容の助言がなされていたように思われます。こうした周囲に対する至公至平の態度と暖かい配慮が示されるのは、絃一先生の大きな人間的魅力ではなかったでしょうか。この先生の指導の下では、間違った方向へ行くことはない、という安心感が得られたのです。

大規模な法人作品を数多く取り上げられた絃一先生ですが、南高を離れてから、よく「きれいな小品をやりたい」とおっしゃられていたことを思い出します。私もその頃の先生に近い年齢になり、お気持ちがよくわかるような気がいたします。OBバンドも、もっともつと振っていたきたかったと思いますし、子どもの精神的支柱として長く御指導いただきつつという想いでいっぱいです。OBバンドといえ、追悼演奏会での演奏は、改めて南高の底力をみる思いでした。絃一先生への、何よりのご供養になったのではないのでしょうか。合掌。

阿部 智博

先生がお亡くなりになった日、私は全国大会が名古屋で開催されるため練習場を手配する目的で名古屋に居りました。早朝、桂子先生からのお電話でその事実を伺い、全身から力が抜け目の前が真っ白になったことを鮮明に覚えております。県吹奏楽会長として残念ながら県大会でお姿を拝見することはできず、秋田に戻ったらお見舞いに伺おうと思っていた矢先で、本当に残念でなりません。先生が入退院を繰り返され病氣と闘っていたことは、周りを氣遣って、またご自身のダンディズムを貫かれようとしたこともあり、多くの人には知られておりませんでした。私は病院やご自宅にお伺いした際にいろいろとお話をさせていただきましたが、いつも南高や私のこと、そして県吹奏連のことを気にかけてくださり、「おつとモヒロ、バンドの方どうだ」とか「今年何やることにした」、「連盟行事の準備、大丈夫だべ」など、ご自身の心配より秋田の吹奏楽発展について常にお考えいただいていたように感じます。少しでも先生にご心配をお掛けしないようにと、必死にがんばったものでした。先生との思い出は、ここで書き尽くせるようなものはありません。ただ私が今こうして高

校の教員として音楽や吹奏楽、そして生徒達と接しているのは、中学生のとき南高のバンドに憧れ、幸いその一員となつて先生と出会い、どうしても先生のようになりたいと思ひ、先生の「トモヒロ、先生になれ」という後押しがあつたからであることは紛れもない事実で、大学時代からずっと、本校に赴任してからも、機会あるごとに声をかけてくださいました。私にとつて先生は「恩師」であるだけでなく「第二の父」として常に心の拠所であり、物心共に支えとなってくださいました。新校舎の音楽室は、先生が教頭として勤務した際に設計に携わられたものですが、現在そこには先生のご遺影が常に飾られております。毎日、先生に見守られ、また時には「おいトモヒロ、ちゃんとやれ!」と気合をかけて頂きながら練習しています。先生の人と業績はあまりに大きすぎて及びもしないのですが、百名を超す部員と共に先生の「教え」を学び続け、伝え続け、これからも伝統に胡坐をかくことなく挑戦し続けていきたいと思っております。今年は先生が唯一コンクールで二回取り上げた三善晃先生の「交響三章」を自由曲に選びました。

「絃一先生へ贈る言葉」

- 6期 宮腰 智也 trb ・心から感謝、感謝。有難うございました。ご冥福をお祈りいたします。
- 6期 藤井 利孝 perc ・天国からいつまでも叱咤激励してくださいね。
- 6期 平間 恭子 cl ・先生の情熱的な大きなひとみが今も心に残っています。安らかに眠りください
- 9期 赤川 司 tuba ・吹奏楽をやりたいと秋田南高を選んだことで絃一先生と出逢えました。自分の人生の青春時代を吹奏楽で喜びを満たしてくれた恩人です。どうか安らかに
- 9期 澤井 康孝 hrn ・時間が経つにつれ絃一年生から指導いただいた一言一言が実感されます。謙虚に、そして真摯に物事に取り組む姿勢、生き方を大事にしています
- 10期 松崎 祐孝 hrn ・突然の訃報にただ驚くばかりでした。心よりご冥福をお祈りする心境です。三年間ご指導有難うございました
- 10期 加藤志穂子 cl ・卒業後ほとんど会えないままになっていました。とても残念です。どうか安らかに
- 11期 三平香保里 fg ・天国にいかれても世界中の音楽家たち(チャイコフスキー、ワーグナー、ストラヴィンスキー……)とすばらしいメロディを奏でてください
- 12期 西 聡 trb ・県民会館に集まったたくさんの出演者、聴衆、改めて絃一先生の存在の大きさ、失ったものの大きさを感じました。皆で音楽を創り上げていく喜び、素晴らしさ、つらさ、楽しさを味わうことのできた3年間でした。私の財産です。有難うございました。
- 14期 山崎 弘光 trb ・ここ数年、秋田には帰るのですがほとんどが日帰りばかりで、情報にうとくなっており、絃一先生の喪報は寝耳に水でした。去年の演奏会にのるつもりで楽器再開しましたが間に合いませんでした。
- 14期 木村三香子 B.cla ・「秋田南高校の吹奏楽部でした」誇りをもってこの言葉を口にできる高校生活を送らせていただきました。絃一先生に感謝しています。早すぎる旅立ちですが、今は安らかに休んでください。
- 15期 小原 知子 cl ・3年生の少ない期、とりわけクラの3年生は1人だったので、先生はとても近くで指導してくださいました。本当に幸せな時期に吹奏楽を経験しました。なんの恩返しもしないうちに……、残念です。
- 15期 菅原美樹雄 hrn ・先生からご指導いただいた3年間がいかに関自分にとって大きな、重い時間であったかということを実感しております。力いっぱい生きていきます。有難うございました。
- 16期 佐藤かおる cl ・今も先生は天国でタクトを振っているのでしょうか？天国からみんなの為にあたたかい曲を届けてください
- 16期 藤田 大政 sax ・卒業してからすぐ秋田を離れた自分にとっては絃一先生がお亡くなりになったという実感がまるでありません。永遠に私の心でいきつづけることでしょう
- 17期 高橋 正幸 hrn ・楽器歴30年を越えました。絃一先生のご指導から得たものは大きかったと実感しております。ご冥福をお祈りいたします。
- 17期 村木 綱子 stb ・高校生だった3年間はたくさんの時間を先生と一緒に過ごしました。「謙虚であれ」という先生の言葉は私の生き方のテーマになっています。
- 17期 小助川聖子 fl ・絃一先生、本当に有難うございました。先生のお蔭で5年連続金賞の喜びを味わうことができました。先生の素晴らしい指揮の下に達成できたことです。安らかに休んでください。
- 17期 角田 雅子 cl ・絃一先生と過ごすことのできた高校の3年間は私にとって大きな宝物です。本当に有難うございました。これからも吹きつづけたしたいと思います。どうぞ見守ってください
- 19期 安藤久美子 fl ・先生のご指導のもと、仲間と音楽を創り上げていく喜びを知り、充実した高校生活を送ることができました。有難うございました。
- 20期 中田 正人 fg ・絃一先生の無言の存在をオーケストラ活動や娘(4歳)につないでいきたい
- 21期 照井由紀子 cl ・先生と一緒に夢見ることができて本当に幸せでした。ご冥福をお祈り申し上げます
- 21期 柿崎 明子 cl ・これからも大好きな吹奏楽をきいて楽器を吹いて時々絃一先生や友達との楽しかった南高時代を思い出して……。いつも音楽を近くにおいて生きていきます。南高吹奏楽部の卒業生で本当によかったです。
- 22期 齋藤 聡美 fl ・憧れの南高校の吹奏楽部の練習は本当に大変で、辛くて苦しくて何度もやめようと思いました。そんな私を3年間励まし続けてくださいました。お陰で卒業して20年たった今でも現役のプレイヤーとして大好きなフルートを吹いています。この感謝の気持ちを次世代を担う我が子たちにも教えてゆきたいです。
- 22期 山本美智代 cl ・先生が指揮棒を構えた瞬間、自分にスイッチが入る感覚が大好きでした。
- 22期 山根 正明 perc ・泉中に指導されにいらっしゃったときティンパニなかなかいいよと言われて南高に入りました。3年間いつも注意され続けましたが今ではとてもよい思い出です。
- 22期 小池 哲朗 trb ・一時期中断していましたが、社会人になっても楽器を吹きつづけています。吹奏楽を通して多くの人たちと親交を深めることができ、それが私の財産のひとつになっています。きっかけは南高吹奏楽での活動です。絃一先生に感謝
- 23期 中西 理 perc ・あらためて先生の偉大さと直接指導いただけた幸運を感じています。
- 24期 佐々木 渉 trb ・先生から教えていただいたことと同じことを生徒に伝えようとしている自分がいることに気づくことがあります。これからも力を貸してください。
- 25期 白鳥 明子 perc ・今までお疲れ様でした。天国でもタクトを振っていることと思います。安らかに休んでください。
- 26期 赤間美佳子 fg ・OBバンドで少しの間ですが絃一先生の指揮で演奏できたことを嬉しく思っております。ご冥福をお祈り申し上げます。
- 28期 田中 佳子 fl ・シンフォニックで指揮していただくのをずっと待っていたのに悲しくて淋しくて残念でたまりません。どうかゆっくり休んでください
- 29期 加藤かおり sax ・絃一先生には卒業してシンフォニックで指導していただき本当に有難く思っています。わずかな期間でしたが先生にいろんな事を学んだと思います。本当に有難うございました。
- 34期 佐藤 美雪 cl ・絃一先生に言っていた言葉を胸に刻んで演奏していきたいと思えます

- 38期 米屋 咲子 tp ・ 絃一先生からはいつも「音楽って楽しい」という気持ちが伝わってきました。演奏の楽しさをいっぱい教えていただきました。絃一先生、有難うございました。
- 39期 佐藤富美男 trb ・ コンクールの夏合宿中に何度か合奏をしていただいた時に、短い時間でもたくさんのことを学んだような記憶があります。長い間お疲れ様でした。自分は今後も音楽に携わっていきたいと思います。
- 39期 樋口 由香 hrn ・ コンクールシーズンには必ず顔を出してくださった絃一先生。本当に有難うございました。音楽を通していろいろなことを学ばせていただきました。
- 40期 武内 美幸 cl ・ 直接のかかわりは少なかったものの、絃一先生からは音楽の素晴らしさを教えていただいたと思います。有難うございました。
- 13期一同弔電 ・ 「秋田県立秋田南高等学校。金賞！」の瞬間、神奈川県民ホールいっばいに響く歓声。今でも鮮やかに思い浮かべられるその風景。秋田南高校吹奏楽部が全国で始めて金賞を受賞した昭和51年11月7日のことです。
あれから29年の時が流れ、妥協を許さなかった絃一先生の日々のご指導は、大きく確かな喜びの道へと導いてくださるものであったことをしみじみ感じております。十代後半に、あれほどのうれしさを感じられる幸せを絃一先生は私たちに与えてくださったのです。先生お疲れ様でした。一休みされましたらいつ日かまた「ペトリューシユカ」を指揮してくださいね。たくさんのたくさんのありがとうの思いを込めてさようなら。

第42回 OB会のご案内

来たる八月十五日（火）十六時より、秋田県民会館裏手にあります『萬亭楼』にてOB会を行います。ご出席されます方は同封のハガキにて八月十一日までにお知らせください。なお先日行われました役員会にて、今後は一月三日ではなく絃一先生の亡くなられた八月のお盆の時期に開催する事を決定いたしました。

OBバンド からのお知らせ

OBバンドであります秋田シンフォニックウインドアンサンブルの第十五回定期演奏会が十一月二十五日（土）秋田市文化会館にて開催される予定です。詳細につきましては同封のご案内をご覧ください。

<http://www.akita-swe.net/>

OB会ホームページ 完成のお知らせ

先般ご案内いたしました秋田南高等学校吹奏楽部OB会のホームページが完成いたしました。過去の演奏内容、写真ギャラリー、OB会だよりふきのとう、お知らせコーナーなどがございます。定期的にご覧いただけますようお願いいたします。

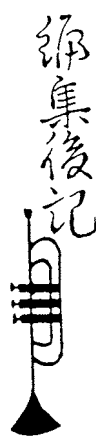
今後ご案内につきまして電子メールでもおこなっております。メールアドレスをご連絡いただければ次回より配信いたしますのでどうぞご利用ください。また過去の写真等で掲載してもよいものがありましたら是非お貸しく下さい。

<http://akitaminimbass.com/>

OB会活動報告

(2006年)

- ・ 秋田南高校吹奏楽部ニューイヤークンサート2006への協力（H18・1・7（土）秋田県民会館）
- ・ 秋田南高校吹奏楽部第38回定期演奏会への協力（H18・6・9（金）秋田県民会館）
- ・ 秋田シンフォニックウインドアンサンブル第14回定期演奏会への協力（H18・3・4（土）アトリオン音楽ホール）
- ・ OB会だより「ふきのとう追悼特別号」発行（H18・8・発行） など



OB会だより『ふきのとう』の発行は平成八年十二月以来になりますので、初めて手にする方もいらっしゃると思います。今回は高橋絃一先生の一周忌にあわせた特別号になりましたが、これを機に今後も引き続き発行に努めたいと思いますのでOBの皆様のご協力、どうぞよろしく願います。

（事務局長 二八期 本田正博）